

使い続けるうちに現れる
黒色の模様、
これこそが「用の美」です

英語で漆器のことをJapanと言います。漆器は日本を代表する伝統工芸で全国に産地がありますが、和歌山の紀州漆器こそ、会津漆器、山中漆器と並ぶ三大産地の一つ。その昔、岩出市の根来寺にいる何千人という僧侶たちが日常に使うための器として作られたのがきっかけでした。熊野原生林があるため、優れた木材はたくさん。木の素地に布着せを行って下地を施し、黒漆を塗り、最後の仕上げに朱色の漆を塗ります。とても丈夫で、毎日使っているうちに表面の朱色がいい感じに取れて、下の黒漆が模様のように浮き出てきます。これが根来塗り。ところが1585年、豊臣秀吉が紀州征伐で根来寺を攻めてきたため、みんな散り散りになり、黒江などに逃れてきました。これがきっかけで根来塗りの技法を伝えたと言われます。軽くて口当たりの良い漆器は日常使いにもぴったりで、再び注目が集まっています。

漆器と言えば輪島塗りや会津塗りが名高いですが、手頃で使いやすい近代漆器は和歌山県北部にある根来寺で生まれた漆器、根来塗り（ねごろぬり）が発祥とも。現在も根来塗りを手掛ける島安汎工芸製作所を訪ねました。

撮影／沖本明

近代漆器のルーツ

根来塗りを

知っていますか？



こうやって
漆器は
作られます

丸盆小¥2,100(直径13cm)、
中¥3,150(24cm)、大¥4,
200(29.8cm)。縁の微妙な
黒模様がとても美しい塗り。
プレートとしても使えます。

漆を塗って乾かし…
この作業を繰り返す

漆を塗る作業は最も気を使うところ。上階の方が空気の流れが安定するため、島安さんでは2階で行っています。現在、乾かしているところ。

さび付けは
欠かせない作業

作業中に出来てしまった傷や、もともとある木の傷みは、漆を塗る前にバテでキレイに穴埋めします。だからつるつると均一な仕上がりに。

こんな大きな
家具まで作っています

多いのはお重や椀などのテーブルウエアですが、スツールやソファテーブルなどの家具も製作。こうやって木を乾かしていきます。

職人さんが製品に
合わせてカット

昇降盤を使って丁寧かつ素早く荒切りしていきます。木くずなどのほこりが塗りに付かないように、裁断は1階で行います。

工房内には数種類の
木材がいっぱい！

こちらはヒノキの間伐材。森を手入れするために不要な木を伐採してできた木材を使うことで、エコプロジェクトに参加しています。



MAP→P17 M5
 海南東I.C.から車で5分
島安汎工芸製作所

しまやすはん
 ☎073-482-3361

大正5年創業。もともと黒江にあったが、昭和41年に現在の地に構える。伝統を守る一方で常に新しくモダンな漆器を提案、2000年にデビューしたネオ ジャパネスク 汎が人気。サンプルルームではほとんどの商品を見ることができます。

海南市大野中507-1 8:00~17:00
 土・日・祝日休み カード不可 Pあり
<http://www.uruwashi-urushi.com>



時代とともに変化しながら500年以上続く紀州漆器。私たちの生活も畳や床の間といった和の生活から、テーブルやイスといった洋の生活に変化しています。そこで4代目の島平さんが新しく作り出したのがネオジャパネスク 汎というシリーズ。漆器といえは朱や黒色、という概念を覆す、変わり根来の白い漆器は、どこか北欧の雰囲気を感じ起させます。また2年前から和歌山のエコプロジェクトにも参加、熊野の間伐材も取り入れています。ヒノキの間伐材は節が多いため、本来漆器には向いていません。そこであえてクリアな仕上げにして、木肌を生かしたデザインに。「伝統的なものも大切だけど、今の生活スタイルに合ったものを作る」。島さんが作る新しい紀州漆器は「テーブルコーディネーターや料理研究家の間でも評判、もうすぐ食洗機でも使える新製品も登場予定です」。

生活スタイルや環境に合わせて変化するモダンな漆器



取材担当のコレ欲しい!

ネオ ジャパネスク 汎 二段重箱 変根来 各¥5,250(40×320×93mm)。本体部分には熊野ヒノキを使用。ふたの部分の変根来がポイント。



ヒノキのプレートに黄金色の塗りを施したプレート¥3,150。ほかに白、朱もあり。吸い物椀¥2,100、箸置き付きの箸箱は¥2,100

紀州根来塗りを代表するシンプルでスクエアな形が美しい、正角切溜三入子¥15,750。ふたの部分もお皿として使え、機能美も抜群。

根来塗りの模様はこの研ぎ出し作業で目の細かな耐水ペーパーを使って、朱色の漆を磨いて落とし、下の黒色を出していきます。すべて手作業だから、同じ模様は二つとありません。

乾いたら研磨してさらに均一にフラットなものはサンダー(研磨機)で、乾いたものを磨いていきます。この塗る→乾かす→磨くという作業を繰り返して、美しく仕上げていきます。

